上方から江戸へ：元禄文化と化政文化

江戸時代の文化の中心は、なぜ上方から江戸へ移ったのか

元禄文化

時期　17世紀末〜18世紀初め

中心　上方（大阪・京都）

担い手　経済力のある上方の町人

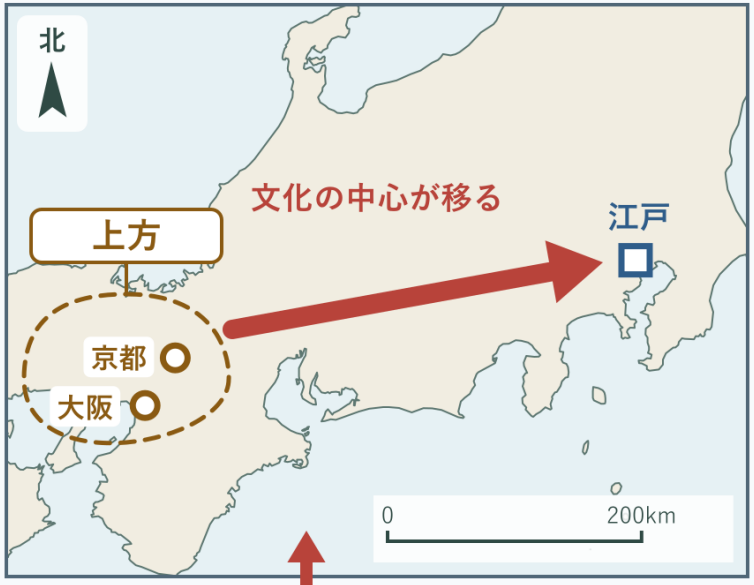


分野の例

文学
井原西鶴（町人の暮らしを描いた小説）
松尾芭蕉（俳諧）

芸能
近松門左衛門（人形浄瑠璃の脚本）
歌舞伎も人気に

絵
菱川師宣（浮世絵）
尾形光琳（装飾画）



なぜ中心が移ったのか

1. **江戸の人口と経済力が伸びる**
   江戸は大きな都市になり、周りの地域の産業も発達した
2. **出版が広がる**
   本が多く刷られ、貸本屋から借りて読むこともできた
3. **読み書きのできる人がふえる**
   寺子屋などで、町人や百姓の子どもも学んだ

化政文化

時期　19世紀初め

中心　江戸

担い手　江戸の庶民まで、はば広い人々



分野の例

文学
十返舎一九（こっけいな本）
小林一茶（俳諧）
川柳や狂歌も楽しまれる

芸能
歌舞伎や寄席が庶民の楽しみになる

絵
葛飾北斎・歌川広重（多色刷りの浮世絵）
版画で多く刷られる

※ 地図は近畿から関東までの範囲。人型の数は広がりを表す記号で、人数ではない。人名は代表的な例。